

## もくじ

### 特集：国際化の進展と日本語教育

座談会

#### 国際化の進展と日本語教育

水谷 修／ステファン・カイザー／西尾珪子  
レー・バン・クー／河上恭雄（司会）

4

#### 日本語の国際化とその問題点

野元 菊 雄 13

#### 日本的表現と外国人

金田一春彦 16

解説 日本語指導内容、方法の改善  
—文化庁国語課の施策—

18

都道府県のページ

#### 我が県の文化行政——③①

#### 「質」の文化行政

広島県 19

#### 特色ある博物館・美術館紹介——⑬

#### 織りなす「動」と「静」のミュージアム

彦根城博物館 22

#### 感動と交流の輪広がる

#### 全国高校総文祭・岡山

24

文化庁だより

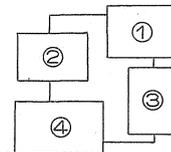
- ・文化政策国際会議の開催について 26
- ・芸術文化関係の公益信託について 27
- ・文化財保護強調週間 28
- ・第31回教育・文化週間 28

#### 展覧会紹介

- 坂本龍馬の関係遺品 29
- 能弁なオブジェー現代アメリカ工芸の展開— 29

- ・文化庁行事報告・  
予定…………… 30
- ・「美をもとめて」  
放送予定…………… 30
- ・国立劇場ニュース…… 31

#### 表紙写真紹介



- ①交換風景 ②文化交流  
写真提供：(財)国際教育振興会
- ③弁論大会  
写真提供：全国日本語教育機  
関振興協会
- ④教室風景  
写真提供：アルク  
写真撮影：ピーター・ミラー

題字デザイン※桑山弥三郎

# 芸術文化関係の 公益信託について

## 1 公益信託の現状について

公益信託は、大正十一年の信託法の制定により認められた制度であるが、五十年余りの間実例がなく、第一号が発足したのは、昭和五十二年になってのことである。その後、公益信託の数は急増し、平成元年三月末現在で、受託件数二百五十七件、信託財産残高百三十四億円、これまでの受給者総数約一万二千人、給付総額約二十五億円に至っている（財公益法人協会調べによる）。

## 2 芸術文化関係の公益信託の現状について

芸術文化関係の公益信託のうち、文化庁文化普及課の所管するもの（以下「芸術文化関係の公益信託」という。）は平成元年十月末現在で十二件あり、芸術文化に関する顕彰・助成を行うものが大部分である。

分野別では、音楽関係が四件、文学関係が三件、美術関係が二件、演劇関係が一件、その他が二件となっており、主要な分野に比較的バランスよく分散している。今後、幅広い芸術文化の諸領域をカバーするため、公益信託制度のより一層の活用が大いに期待されることである。

## 信託財産の規模について見ると、公益信託

全体の一件当たり平均の信託財産は約四千万円であるが、芸術文化関係では、総計約二億九千万円、一件当たり平均約二千四百万円となっており、公益信託全体の平均額の二分の一強である。給付額について見ると、公益信託全体では、これまでの受給者一人当たり平均は約二十一万円であるのに対し、芸術文化関係（平成元年度の新設を除く九件）では、受給者総数十七名、給付総額六百七十万円、受給者一人当たり平均約三十九万円（昭和六十三年実績）であり、公益信託全体の平均額の約二倍である。また、これらのことから、芸術文化関係の公益信託では、一件当たりの給付者数は他の分野に比してかなり少ないことがわかる。

## 3 今後の課題について

芸術文化関係の公益信託が行う顕彰・助成は、芸術文化関係者の創作、研究意欲の高揚に非常に大きな貢献をしている。今後は、顕彰・助成以外の事業についても公益信託が取り組んでいくとともに、そのための信託財産の大型化が図られることが期待される。特に、

信託財産の規模が他の分野に比してかなり小さいことにかんがみ、複数の小規模資金を一元的に信託する方法について検討する必要がある。

なお、昭和六十二年度税制改正で創設された特定公益信託については、芸術文化関係では今だ実例がなく、今後、同制度の積極的な活用が望まれる。

（文化庁文化普及課）

文化普及課所管公益信託一覧

分野	公益信託名	引受許可年月日
日本文化	上野五月記念日本文化研究奨励基金	昭和54年10月29日
美術	内山晋米寿記念浮世絵奨励基金	昭和56年9月29日
音楽	中島健蔵記念現代音楽振興基金	昭和57年2月20日
音楽	黒柳守綱記念音楽振興基金	昭和58年8月16日
現代詩	平澤貞二郎記念基金	昭和60年4月9日
現代詩	現代詩人賞沢野起美子基金	昭和60年4月30日
文学	雫石とみ文芸賞基金	昭和62年11月13日
演劇	山本安英の会記念基金	昭和63年12月9日
音楽・舞踊	村松音楽舞踊振興基金	平成元年2月6日
美術	倫雅美術奨励基金	平成元年7月12日
音楽	ルイ・グレーラー記念室内楽基金	平成元年10月9日
音楽	小泉文夫記念民族音楽基金	平成元年10月9日

編 集 後 記

外国からの文化庁来訪者の中に、日本語の上手な方が増え、諸外国での日本語学習者の増大を感じます。今月は、外国の人々に対する日本語教育に焦点を当てました。最近話題になっているヴェトナム難民、留学生など滞日外国人の増加と、日本の経済力の高まりに伴う諸外国での日本語学習者の急増に対応する日本語教育の抱える問題について関係者のご提言をいただきました。今回の座談会に御出席のクー、カイザー両先生の流麗で機知に富んだ日本語と日本に対する深い理解に感嘆しました。

朝夕段々と冷え込むようになり、長期予報どおり今冬は寒さ厳しくなりそうです。風邪をひかないよう今のうちに体力を十分養っておきましょう。

(K)

広告の問合せ・申込み先

株式会社ぎょうせい 営業第一課・宣伝係  
☎(〇三)二六九一四一四五(ダイヤルイン)

「文化庁月報」十一月号

(通巻第二五四号)

平成元年11月25日印刷・発行

編集 文化庁

〒100東京都千代田区霞が関3丁目2番2号

発行所 株式会社ぎょうせい

本社〒104東京都中央区銀座7丁目4番12号

営業所〒102東京都新宿区西五軒町52番地

電話(〇三)二六八一二四一(代表)

振替口座 東京 九一六一番

印刷所 (株)行政学会印刷所

定価一九〇円(本体一八四円)(送料四六円)  
年間購読料二、二八〇円(税込・送料共)